

単独継続困難申し出路線 「沼津駅～柿田～三島駅線（柿田線）」について

○ 現況

鉄道駅のない清水町から、地域の中心駅である「沼津駅」や新幹線も停車する「三島駅」のどちらにもアクセスしている系統であり、市民の通勤、通学、通院、買い物等の利用だけでなく、町外から静岡医療センターへの通院や大型商業施設「サントムーン柿田川」での買い物、あるいは柿田川湧水公園への観光等の利用も多い路線です。市町を跨ぐ利用が多く、今年度の乗降調査では全体の82%となっています。

沼津駅～対面石入口、堂庭～三島駅間は、他系統の運行もありますが、対面石入口～堂庭間はほぼ単独路線となっております。

(2022年乗降調査結果 496人中、市町を跨いでいる人員408人(82.2%)
うち通勤・通学196人、通院等207人、観光利用5人)

○ 国庫補助申請理由

当該路線は、上述のとおり、静岡医療センターへの通院や大型商業施設「サントムーン柿田川」での買い物等の利用が多く、コロナ禍以前は黒字もしくは若干の赤字程度となっておりました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者が減少し、欠損が生じるようになってきました。今後も収支改善には努めてまいりますが、引き続き収支状況は厳しいものがあることから、公的支援により運行を継続いたしたく、申請するものでございます。

※2021年度欠損額 7,013千円、2022年度欠損見込み 12,182千円、2023年度欠損見込み 8,306千円

○ 提案理由

2023年10月から国庫補助（地域間幹線系統）の適用を受ける場合、2022年9月未までに東海バスが静岡県生活交通確保対策協議会に対し、「単独継続困難（国庫補助分）」の申し出を提出することが必要となります。⇒【提出済】

さらに、沿線の各市町の地域公共交通会議において、当該系統を国庫補助とすることについて議題として諮り、承認を受ける必要があることから、提案するものです。

○ 収支改善について

これまで、エコドライブ(省燃費運転)の取り組み等による経費削減策を行う一方で、利用人員および収入の増加のため、さまざまな利用促進策およびダイヤの見直しを実施してまいりました。特に、2013年度からは「わかりやすいバス、乗りやすいバス」をスロージャンにして、増収対策の強化を図っているところであり、コロナ禍前は、全体として輸送人員の減少に歯止めがかかってきておりました。

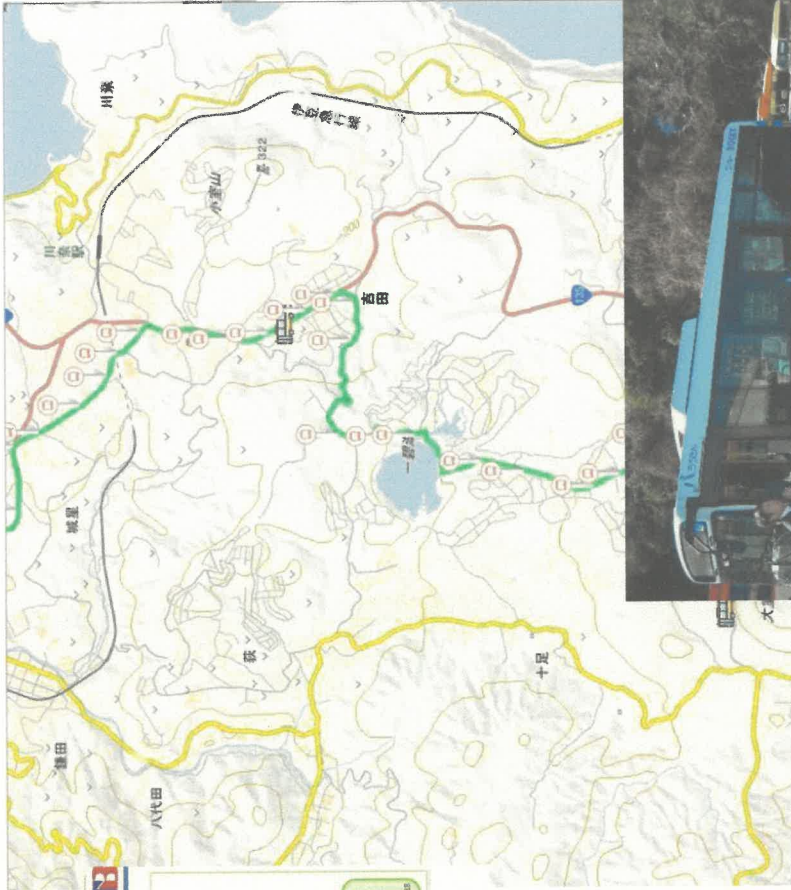
今後も引き続き収支改善に取り組み、補助金の減額に努めてまいりますので、ご理解ご協力をお願いするとともに、国庫補助適用につきましても承認くださいますようお願いいたします。

～増収策～

- ①路線バス時刻表の全戸配布(新聞折込・地区回覧板を利用した配布)
- ②戸別訪問の実施 ③系統番号化の推進 ④バスの乗り方教室の充実
- ⑤時刻検索サイトへの掲出 ⑥高校生アンケートの実施
- ⑦バスロケーションシステムの導入 ⑧デジタルサイネージの設置
- ⑨「MaaS」への参画(デジタルフリーパスの取り扱い)
- ⑩案内所におけるクレジットカード、QR決済コードの取り扱い
- ⑪バスの接近情報の表示 ⑫交通系ICカードの取り扱い 等

高校生アンケート

(問2)あなたの通学時の路線バス利用状況について伺います。



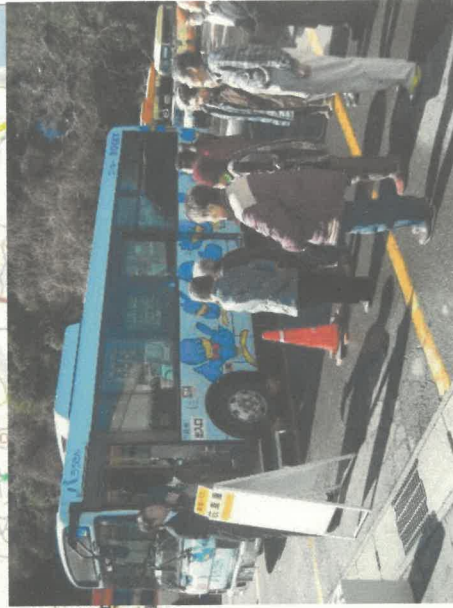
↑バスロケーションシステム



デジタルサイネージ



↑バスの乗り方教室



【沼津駅～柿田～三島駅線 路線図】



議案第4号追加資料 富士急シティバス

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名

富士急シティバス株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

桜堤線

三島駅～三島駅北口・桜堤～裾野駅

計画策定年度 令和3年度

運行期間 R3.10.1～R4.9.30

評価年度 令和4年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	B	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	4495.0回 (12.3回/日)	4480.0回 (12.2回/日)	0	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	・計画(目標)は表2記載数値 ・年末年始減便実施のため
収支率	計画値に対する実績値	62.2%	68.2%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	69,295人	76,278人	6	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(3)箇所 バス停(1)箇所	7	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	93%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	別紙のとおり		—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり經常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	439.70円	0	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	
合計				51	評価指標	B

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

議案第4号追加資料 富士急シティバス

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	沿線から鉄道駅や中心市街地への通勤・買い物・通学需要等を目的としており、三島駅、三島駅北口および裾野駅で他の交通機関に接続するネットワークを形成する。 桜堤地区(長泉町)、伊豆島田地区(裾野市)からの通勤や買い物の需要としての利用がある。 この路線の運行により、交通空白地帯の解消を図っている。
増収策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行政と連携した地域との意見交換を行い、地域の状況を把握するだけでなく、その機会を利用して路線の存在をアピールすることにより、利用促進を図った。 2) 富士急グループのWEBサイトでの時刻表検索サービスを実施し及び、また乗換検索サービスのコンテンツプロバイダへのデータ提供により、時刻表検索サービスに対応させている。(ナビタイム、駅すばあと、ジョルダン、Yahoo乗換案内、GoogleMap) 3) 幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を沿線市町にて実施した。 4) 小学生の長期休暇(春休み、夏休み、冬休み)に合わせた特別運賃導入を導入し、利用促進を図った。 5) ノンステップバスを導入(車両更新)するとともに、既存車両についても案内表示装置を更新し、使いやすいバス環境を整備した。 6) リアルタイム混雑情報提供機能付バスロケーションシステムを導入し、利用しやすいバス環境を整備した。
費用削減策	<ol style="list-style-type: none"> 1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な作業再編による乗務員人件費の抑制を図った。

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【拠点】 JR三島駅・・・JR東海道線、東海道新幹線、伊豆箱根鉄道 JR三島駅(北口)・・・JR東海道線、東海道新幹線 JR裾野駅・・・JR御殿場線、(バス)須山線、御殿場方面、裾野市内循環等</p> <p>【バス停】 三菱前・・・徳倉経由三島駅方面(須山線等)</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>【公共施設】 ハローワーク三島、簡易三番所、日本大学、日本大学三島高校、三島北高校、長陵高校、勤労者体育センター(長泉町)、裾野南小学校、裾野警察署、裾野市役所</p> <p>【拠点施設】 JR東海総合研修センター、東レ、東レ総合研修センター、三菱アルミニウム(大手事業所) 米山梅吉記念館 フレスポ長泉、しずてつストア長泉店、ノジマ長泉店、マックスパリュ長泉中土狩店、コープしずおか桜堤店(商業施設)</p>

差し替え

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名

富士急シティバス株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

がんセンター線

三島駅～長泉なめり駅～がんセンター

計画策定年度 令和3年度

運行期間 R3.10.1～R4.9.30

評価年度 令和4年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	B	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画(目標)	運行実績(内容)	評価点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	4479.5回 (12.2回/日)	4482.0回 (12.2回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	・計画(目標)は表2記載数値
収支率	計画値に対する実績値	80.2%	83.0%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	47,778人	62,624人	6	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(3)箇所 バス停(2)箇所	8	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	79%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	別紙のとおり		—	
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり經常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	439.70円	0	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	
合計				55	評価指標	A

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

差し替え

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	JR三島駅及びJR長泉なめり駅から静岡がんセンターへのアクセスを目的とする他に、沿線との通勤・通学・買い物等需要への対応を目的とする 当路線により、JR御殿場線(長泉なめり駅)やJR東海道線、東海道新幹線、伊豆箱根鉄道線(三島駅)および他の公共交通機関に接続する公共交通ネットワークを形成している。
増収策	1) 行政と連携した地域との意見交換を行い、地域の状況を把握するだけでなく、その機会を利用して路線の存在をアピールすることにより、利用促進を図った。 2) 富士急グループのWEBサイトでの時刻表検索サービスを実施し及び、また乗換検索サービスのコンテンツプロバイダへのデータ提供により、時刻表検索サービスに対応させている。(ナビタイム、駅すばあと、ジョルダン、Yahoo乗換案内、GoogleMap) 3) 幼稚園、小学校等における「バス乗り方教室」を沿線市町にて実施した。 4) 小学生の長期休暇(春休み、夏休み、冬休み)に合わせた特別運賃導入を導入し、利用促進を図った。 5) ノンステップバスを導入(車両更新)するとともに、既存車両についても案内表示装置を更新し、使いやすいバス環境を整備した。 6) リアルタイム混雑情報提供機能付バスロケーションシステムを導入し、利用しやすいバス環境を整備した。
費用削減策	1) 燃料、オイルその他修繕部品等、車両購入の購入に加え金額が多い備品等についても、富士急グループ全体での一括仕入れ実施や比較購入の徹底を図りコスト削減を実施した。 2) アイドリングストップ強化月間の実施や点呼等による周知徹底、街頭監査による注意喚起により、燃費向上を実現し軽油使用料の削減を図った。 3) 車両の更新により、燃費効率向上と修繕費の削減を図った。 4) 効率的な仕業再編による乗務員人件費の抑制を図った。

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	(主な乗換え拠点・バス停) 【拠点】 JR三島駅・・・JR東海道線、東海道新幹線 JR下土狩駅・・・JR御殿場線 JR長泉なめり駅・・・JR御殿場線 【バス停】 長泉役場・・・清水長泉循環 下長窪・・・北小林、JR沼津駅方面
公共施設 拠点施設 アクセス状況	(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設) 【公共施設】 長泉北小学校、JR下土狩駅、伊豆箱根鉄道広小路駅、長泉町役場、長泉健康公園(ウエルピア長泉)、静岡県立がんセンター、三島市民会館、長泉町文化会館、長泉小学校、長泉中学校 【拠点施設】 ウエルディ長泉(ショッピングセンター) ベックマン・コールター、ファルマーバレーセンター(大手事業所)

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名 伊豆箱根バス株式会社

系統名(起点～経由地～終点) 大場函南線 大場駅～八ツ溝～函南駅

計画策定年度 令和3年度 運行期間 R3.10.1～R4.9.30 評価年度 令和4年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画 (目標)	運行実績 (内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	—	別紙	A	A: 運行目的どおり適切に実施 B: 減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C: 運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	—	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画 (目標)	運行実績 (内容)	評価 点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(3,892)回 (10.6回/日)	(3,896)回 (10.6回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	44.77%	34.73%	3	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	21,457人	18,440人	0	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	—	拠点(2)箇所 バス停(3)箇所	7	拠点(駅・BT): 1箇所2点 乗換可能なバス停: 1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	—	52.00%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	—	施設名称		—	別紙
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり経常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	—	386.00円	6	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	413.6
合計				39	評価指標	B

A(52～79点): 地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点): 地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点): 地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項目	内容
主な運行目的	三島市の伊豆箱根鉄道大場駅とJR函南駅を結ぶ鉄道駅同士が起終点となる路線。 交通結節点である、大場駅・函南駅から、沿線にあるご自宅や各施設までの利用が主体の生活路線として運行しており、通勤・通学の他、日常の通院にも利用されている。また、一部の沿線のバス停から函南町の熱函道路沿いにある大型商業施設へ徒歩での移動も可能であり、買い物にも利用されている。
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・交通系ICカードの対応エリア拡大によるキャッシュレス化の推進。 ・SNSを活用して運行状況や、沿線情報等のお知らせの配信し、利用機会の創出を促す。 ・バスロケーションシステムの活用をPRすることで、バスの利用促進に努める。
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・仕業数の見直しによる人件費の削減を実施。 ・アイドリングストップ強化。 ・有償・無償に係わらず事故の削減強化。 ・コロナ需要にあわせた運行本数の調整。 ・雇用調整助成金の特例処置に伴う乗務員の休業取得。

(2) 各項目の評価

項目	内容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>大場駅・JR函南駅・八ツ溝・大竹口・上沢口</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>函南町文化センター・函南町立図書館・函南町ふれあいセンター・函南中学校・井出歯科医院・宇野眼科・函南耳鼻咽喉科・整形外科函南クリニック・上沢公民館</p>

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート

(様式1)

事業者名

伊豆箱根バス株式会社

系統名(起点～経由地～終点)

沼津大岡三島線

沼津駅～市立高校前・上石田～三島駅

計画策定年度 令和3年度

運行期間 R3.10.1～R4.9.30

評価年度 令和4年度

(1) 基本的事項

項目	基準	計画 (目標)	運行実績 (内容)	評価	備考
主な運行目的	事業者記載事項	-	別紙	A	A:運行目的どおり適切に実施 B:減便・系統短縮等、運行目的どおり実施されていない点があった C:運行目的どおり実施されなかった(路線廃止)
増収策	事業者計画と実績を比較	-	別紙	有	事業者ごとの取組を記載
費用削減策	事業者計画と実績を比較	-	別紙	有	事業者ごとの取組を記載

(2) 各項目の評価

項目	評価基準	計画 (目標)	運行実績 (内容)	評価 点数	評価	備考
運行回数	年間計画運行回数と実績運行回数を比較	(8,251)回 (22.6回/日)	(8,258)回 (22.6回/日)	3	計画数以上 3点 計画数未満 0点 (国土交通大臣が認める除外運行回数は除く)	計画(目標)は表2記載のもの
収支率	計画値に対する実績値	87.07%	94.46%	18	～29% 0点 30～34% 3点 35～39% 6点 40～44% 9点 45～49% 12点 50～54% 15点 55%～ 18点	
乗車人員	計画人員と実績人員を比較	197,914人	230,770人	6	5%超 6点 ▲5%以上5%以内 3点 ▲5%超 0点	
ネットワーク構成	他の系統の乗換可能なアクセス拠点(バス停等)の数	-	拠点(4)箇所 バス停(3)箇所	11	拠点(駅・BT):1箇所2点 乗換可能なバス停:1箇所1点 上限20点	主な拠点及びバス停を別紙に記載
広域トリップ状況	市町跨ぎの移動割合(H13.3.31現在の市町)(運行実績による)	-	60.50%	20	～4% 0点 5～9% 5点 10～14% 10点 15～19% 15点 20%～ 20点	
公共施設・拠点施設アクセス状況	評価対象外(バス停から半径500m以内に存在する学校(小・中・高・大・専門学校)病院(主なもので可)拠点商業施設・企業(主なもので可)その他(官公庁・駅等))	-	施設名称		-	別紙
キロ当たり経費	補助対象年度の前年度の地域キロ当たり経常費用単価(静岡・山梨ブロック)との比較	-	386.00円	6	単価を上回った 0点 単価～▲5% 3点 単価▲6～▲10% 6点 単価▲11～▲15% 9点 単価▲16～▲20%超 12点	413.6
合計				64	評価指標	A

A(52～79点):地域間幹線系統として優れた役割を果たしている
B(26～51点):地域間幹線系統として適した運行となっている
C(～25点):地域間幹線系統として改善に努力を要する

地域間幹線系統確保維持計画系統別評価シート(別紙)

(1) 基本的事項

項 目	内 容
主な運行目的	J R 沼津駅～三島駅間を結び、沼津市・長泉町・三島市に跨がって運行しております。沿線には、高校・工場・病院等が点在しており、沿線住民の移動手段としての利用の他、沼津駅・大岡駅・三島広小路駅・三島駅からバスに乗り換え、沿線施設へ通勤・通学・通院される他地域からの方々の移動手段としても利用されております。
増収策	<ul style="list-style-type: none"> ・交通系 IC カードの対応エリア拡大によるキャッシュレス化の推進。 ・SNS を活用して運行状況や、沿線情報等のお知らせの配信し、利用機会の創出を促す。 ・バスロケーションシステムの活用をPR することで、バスの利用促進に努める。
費用削減策	<ul style="list-style-type: none"> ・仕業数の見直しによる人件費の削減を実施。 ・アイドリングストップ強化。 ・有償・無償に係わらず事故の削減強化。 ・コロナ需要にあわせた運行本数の調整。 ・雇用調整助成金の特例処置に伴う乗務員の休業取得。

(2) 各項目の評価

項 目	内 容
ネットワーク構成	<p>(主な乗換え拠点・バス停)</p> <p>【駅】 J R 沼津駅・J R 大岡駅・三島広小路駅・J R 三島駅</p> <p>【バス停留所】 加藤学園入口・大岡駅前・本町</p>
公共施設 拠点施設 アクセス状況	<p>(バス停から半径500m以内に存在する主な公共・拠点施設)</p> <p>沼津中央高校・沼津市立高校・加藤学園高校・加藤学園初等学校・大岡中学校・知徳高校・西島病院・池田病院・プラザヴェルデ・沼津商工会議所・サンウェル沼津・三島市民文化会館・三島商工会議所</p>